

読者懇談会のページ

市民の政治は軍事に勝てる 島川雅史

(2月9日の読者懇談会から)

「軍事は政治に負ける」と私はいつも言うんですが、たとえば、イラク侵攻のときに、南のクウェート側から米陸軍第3師団と第1海兵遠征軍が突っ込み、北からは、トルコから陸軍第4師団が侵攻する予定になっていた。ところがトルコ議会が領土を通過してイラクに攻め込むのを否決してしまつた。第4師団は遊兵(遊軍、戦列外で待機する軍)になつちやつた。実はアメリカ陸軍10個師団の中で最強の師団が第4師団なんです。それでフランス司令官は非常にあわてて、作戦延期を申請しました。しかしブッシュ大統領とラムズフェルド国防長官(当時)はそのままでやれと言つた。それで南のクウェート側からだけ突っ込んだ。

作戦に参加できなかった第4師団は、地中海の輸送船団に乗り組んだまま、一カ月もかかって、紅海を抜けアラビア海に出てホルムズ海峡からペルシヤ湾に入り、イラク侵攻作戦の最終段階あたりでやっと追いついたんです。

本来作戦の中心だった第4師団が参加できなかった。それをあとあと、ラムズフェ

ルドが理由にする。つまりトルコが妨害したので、兵力が不足し、敗残兵の掃討ができなかった。だから今、ゲリラ戦みたいになつているんだというわけです。

私が強調したいのは、第4師団は強力なハイテク戦車を持ち、三次元の作戦——飛行機、ヘリコプターを組み合わせた突撃ができる。同師団を防ぎ止められる軍隊は世界にないといえるほど強力なんです。その最強師団を阻止した力があつた。それがトルコの議会だった。

実はトルコの議会も否決の結果が出てから議員がみんな驚いた。政府は米軍の通過を認めていて、それを批准するため議会を開いた。議会の否決は想定外だったんです。しかしトルコで数十万人の反戦デモがあり、それが個々の議員の投票行動に影響を与えて、微妙な差で否決が多数になつたというわけでした。あとからトルコ政府は米軍機の上空通過は認めましたが、第4師団の地上からの侵攻は阻止された。同様のことをベルギーがやりました。米軍の領土・領空の通過を拒否した。小さな国ですから米軍は迂回すればよかったのですが、ヨーロッパの国ぐにがみんな拒否すれば米軍のイラク侵攻は非常に困難になつたでしょう。「政治が軍事に勝てる」というのは、そういうことで、同じことが在日米軍基地についても言えるのです。

(しまかわまさし 本会会員 要約文責=編集部)

●次回読者懇談会のお知らせ 山中恒さんとともに「愛国心教育」を考える

昨年の臨時国会で教育基本法全文が強引に変えられました。そして今、「愛国心」を強要する新しい教育基本法の関連諸法が準備されています。「愛国心教育」のねらいや、「戦争ができる国」造りが急がれている中で、「愛国心教育」がもつ意味、さらにこれからの闘い方について、山中さんと一緒に考えましょう。どなたでも参加できます。

■とき 2007年4月13日(金)

午後6時半〜9時 参加費500円

■ところ たんぽぽ舎 JR・水道橋駅

か地下鉄・神保町駅から徒歩7分

(Tel) 03-32338-9035)

